

1

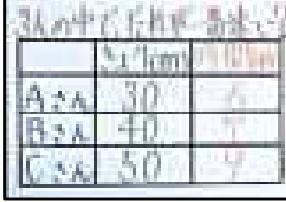
「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

〈テーマ〉前時の振り返りを生かし、必然性、主体性を引き出す導入の工夫(東松島市立大塩小学校)

【ねらいと特色】

前時までは、第5学年で学習した異種の二つの量の割合を想起させ、2つの速さの比較を公倍数の考え方や単位量当たりの考え方で比較する学習をしてきた。本時では、3つの速さを比較する方法を考えることを通して、速さを単位時間当たりの長さで表すことの数理的な処理のよさに気付かせることが主なねらいである。指導に当たっては、以下の点を工夫した。①導入で前時での児童の振り返りを活用し、学びの必然性をもたせ、児童の主体性や意欲を引き出した。②既習事項の活用、取捨選択により自力解決への見通しを持たせた。③予想が難しく、しかも、解決活動を通して自然にねらいにせまることのできる適度な困難さのある課題を工夫した。④集団解決の場面で、他の児童の発表した考えについて自分の考えや意見を述べる時間を確保し、自分の考えと友達の考えを「比べて聞く」ことを通して、互いの考えのよさに気付かせた。

【実践の概要】

学習前	ねらい	学習後
<p>前の時間の方法(単位量当たり、公倍数で比較)は使えるのかな? 人数が増えているけど使えるかな?</p> 	<p>言語活動の充実</p>	<p>1m当たりや1秒当たりの大きさを求めれば、人数が増えても解くことができるんだ!(どんなときも簡単に!)</p>
<p>○前時の振り返りを生かし、必然性、主体性を引き出す導入の工夫</p> <p>T 授業の振り返りでよいことを書いていた友達がいるので紹介します。 C 最小公倍数や1秒間当たりを使う方法があります。 C 速さは最小公倍数や割り算を使ってだすことができます。 T 前回の終わりに人数が増えたらどうやって求めるかって聞いていたの覚えてる?人数が増えても前回の方法は使えるでしょうか? T 課題は、「調べる人数を増やして速さを比べる方法を考えよう」です。</p>		
<p>○ねらいに迫る課題の工夫</p> <p>→予想が難しく、課題解決の学習活動を通して必然的にねらいに迫ることができる課題の工夫</p> 		
<p>○自力解決</p> <p>→前時の想起、既習事項の取捨選択、活用</p> <p>T 前時のやり方を参考にして自分で速さを比べることができますか? C 1秒間当たりで比べられるかな? C 1m当たりで比べられるかな? C 最小公倍数は使えるかな?</p> 		
<p>○ペア学習</p> <p>→自らの思考の確認</p> <p>T 隣同士で自分の考えを説明します。友達の考えでなるほどなあと思ったことは青ペンで書きましょう。 C ぼくは1m当たりで計算しました。</p> 		
<p>○集団解決</p> <p>→自分の考えを発表し、それに対し意見を述べる時間を設ける。</p> <p>C ぼくは1m当たりの考え方でだしました。式は・・・ C ぼくは計算の形は違うけれど答えは同じになりました。</p> 		
<p>○既習事項の掲示の工夫</p> <p>→集団解決で児童が書いた考えを既習事項として教室に掲示(授業場面の想起、自力解決支援に有効)</p> 		
<p>○振り返り</p> <p>C 自分の考えがしっかり言えてよかったです。 Aさんの説明が分かりやすかったです。</p> 		